

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	有限会社サザンクロス		
事業所名	グループホーム宮ノ里		
所在地	〒025-0002 花巻市西宮野目13地割121-2		
自己評価作成日	平成 22年 8月 23日	評価結果市町村受理日	平成 22年 11月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500122&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 22年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個々のペースに合わせて対応し、できるだけ本人の意思を尊重するように心掛けている。食事はバランスを考え、好みを聞きながら。工夫しておいしい食事・おやつを提供している。献立を決めるとき利用者様と一緒に考えることもある。その人が出来ることを見つけ、一緒に行うようにしている。サービスの質の向上、スタッフ間の情報の共有のため月1~2回の会議を継続している。利用者さまが自室で孤立しないようホールで楽しめる雰囲気、生活のリズムを作るように心掛けている。今後は地域の方々を知って頂くように、地域の行事に参加するなど外出の機会を多く持ち、交流面を充実していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年3月にオープンしたばかりであるが、管理者を中心にスタッフは利用者が安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。また今回の外部評価をきっかけに工夫しながら居心地の良い雰囲気づくりに意欲を燃やしている。居室ごとに担当職員を配置し、利用者の日々の生活や習慣にきめ細かく丁寧支援するよう心掛けたいとしている。なお、今後取り組むべき課題を明確に把握しており、例えば、自治会への加入により近隣の方々をはじめ地域住民とのつながりを深めたいとしているほか、農業経験者の利用者のため、畑や花壇などをつくり土に触れることを通じて喜びや楽しみを確保し精神的にも着落くとの視点から周辺整備をしたいとするなど、様々な取り組みの姿勢が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 宮ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そっと寄り添う介護」「千差万別・十人十色」を会社の基本理念とし、職員で考えた「思いやり・ぬくもりのある介護」「親しみやすく、一致団結している施設」を介護理念として支援していきます。	法人理念に加え、ホーム職員が協議してつくった独自の理念「思いやり・ぬくもりのある介護」等が常に目に入りやすいよう事務室等に貼り付け共有とその実践に努めている。	開設間もないホームとして、管理者を中心に相互の理解と情報共有に努めているが、その中でも理念の具現化の取り組みが最も大切と考える。引き続き理念の実践化の方法について全職員との話し合いに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はほとんどなされていないが、運営推進会議での地域代表の方からの助言を活かし、交流の場を増やしていきたいと思っています。	開設間もないことなどから近隣を含め地域との交流するまでに至っていない。今後は、地域自治会に加入するなどしながら地域の一員としての役割を果たしたいとしている。	利用者にとって近隣との付き合いや、地域行事への参加、交流等によるふれあいが大切と考える。ホーム行事に地域の方々を招くなどの工夫による交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は行われていないが、これから実践を通じて当施設として何か役に立てるようになっていきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に開所し、運営推進会議は2回行った。入居状況、活動内容、苦慮していること、ご家族の方の在宅時の苦労などを知っていただき、グループホームを地域代表の方に理解していただく機会となっている。市の担当者や包括の方からの意見も参考にしていきたいと考えています。	運営推進会議では委員からホームのPRのあり方やボランティア募集方法等の意見提言が出されており、ホームの良き理解者、協力者としての発言が多く、また地域とのつながりの場ともなっており、会議の役割が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、市の担当者の地域包括の方に施設の状況を報告し、意見を頂くようにしていきたい。不明な点は市の担当者に確認するようにしています。	市とは、事業所連絡会議の場を通じて話し合ったり、市役所を訪問したり、電話での相談、職員の来訪など、話しやすい環境をつくっており協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員は理解している。しかし、道路に面していることや、人員の不足時には安全を考え、止む得ず玄関に施錠をしたことはあった。今後、ケアの在り方等検討していき、身体拘束は行わないよう実践に努めた。	ホームが交通量の多い道路に近いため安全面に重きを置いたことから一時玄関への施錠をしたことがあるが、身体拘束の弊害を職員は理解し現在はない。今は、言葉による拘束に注意しているという。	マニュアル等により職員の理解を深めているが、新規職員の採用時などを利用し、職員の少ない時におけるケアのあり方などについて話し合うことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止関連法については知っているが研修は今後行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修の機会を設け制度の理解に努めていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明を行うように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き、検討し可能な限り要望にこたえるようにしていきたい。通院介助はご家族・ケアマネの要望があり、実施することにしました。	家族会等は設立していないが、運営推進会議での家族からの要望のほか、家族の来所時や、ケアプランの説明時などの機会を捉え、意見や要望等を聞き反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があったときは可能な限り反映していきたいと思っている。毎月行われるスタッフ会議や日々の業務で話せる環境を作していきたい。	新しいホームでもあることから、スタッフ会議やミーティングの機会を大切に職員が気がついたことや、改善すべきことを聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作り職員が閲覧できる場所に保管しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内のあった時にはできるだけ参加したいと考えております。職員も交代で参加し、参加後は報告会でお互いに情報交換を行っていきます。経験の浅い人はベテランの意見を聞いたりして、技術の向上に努めております。会議では分からないことを確認する機会となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交代でグループホーム協会の勉強会に参加するようにしています。また認知症のセミナーなどにも参加するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話ができる方には話を聴いたつもりですが、十分でなかったように思います。今後の課題だと思えます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みや訪問調査の時に要望を聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方の話を聴きその段階で考えられる支援を「当面の計画」という形でご家族で提示するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の心身の状態によりできることを一緒に行ったり、掃除や買い物に付き合ってもらったり、メニューを相談するなど行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡するときは、ご本人の様子を伝える等、行うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係を理解し、関係を継続できるように考えていきたいと思えます。	利用者の友達や家族などの面会があり、継続した来訪をお願いしているほか、少人数ずつではあるが、近くの神社に参拝したり、デパートに出かけたり、馴染みの人や場所との関係を継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い人同士を同じテーブルにしたり、職員が関わり、孤立しないように工夫している。また、相性が悪い人同士がトラブルにならないように、職員が関わる等対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の課題として検討しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際、可能な人は希望を聴くようにしています。施設の都合を優先しないように心がけています。	利用者の基本情報として利用者・家族の希望や出来ることなどの把握に努めている。なお、部屋毎の担当制を導入しきめ細かく丁寧な対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問した際、本人・家族・ケアマネに話を聞き、状況を把握するように努めている。施設から直接入居された人の場合、生活環境や馴染みの暮らしを把握していない場合もあり、支援に役立つような情報を心がけて行きたいと思えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のその日の状況によって、活動に参加していただいたり、入浴支援・食事の支援を、行っています。施設の都合を優先しないように努めていきたいと思えます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な場合、本人や家族に確認し、スタッフ会議の場で検討します。	介護計画は、本人・家族の意見、意向を踏まえたケアプランを作成しているが、今後、6カ月経過後において、ケア状況をきっちり把握記録をチェックし、モニタリングを実施したうえ、更に職員や家族と意見交換しながらプランの見直しを行うこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に職員間の連絡ノートを活用し、対応が難しい場合などは、会議の場で話し合うなどし、共通したケアを行えるように情報の共有に努めるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により柔軟な対応をするように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできていない現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を聞きながら、今までのかかりつけ医のもとでの治療を継続しています。	必要な医療受診は、基本的にかかりつけ医を利用している。受診の際は、原則、家族に付き添いをお願いし、遠方の方や家族の付き添いが困難なときは職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に情報を伝え、相談しています。ご家族様とも連絡をとり、受信するなど支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院決まった時は、病院関係者やご家族との情報交換を行い、速やかに退院できるように支援します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、医療機関との関係もあるので検討中です。	看取り等の対応の在り方については今後の課題としており、職員の理解や医療機関の支援・協力を図りながら、体制整備の確立を図るとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後研修会を計画し、急変時や事故発生に備えていきたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月に避難訓練をに日中想定で行った。今後全ての職員が訓練に参加するように計画していくと共に、地域の方にも参加を呼び掛けていきたいと思えます。	防災計画を作成しておりそれに基づく独自の避難訓練を実施している。今後は、消防署の参加を踏まえた避難訓練、通報訓練、夜間想定訓練などを予定している。なお、地域住民からの支援体制は今後の課題としている。	火災などの災害への対応は地域住民の支援が非常に大切である。そのためには運営推進会議の場を利用しながら協力を呼びかけることも一考である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を尊重し対応にあたっています。自分が利用者さんの立場になって考え、なるべく傷つかないように考えてケアするように考慮しています。	利用者を人生の大先輩と敬意の念で接しているが、否定的な言動により症状が不安定になるときもあったり、またはっきり言わないと伝わらないこともあり、苦慮するときもあるとしている。	誇りやプライバシーを損ねる言葉掛け等をしないことが基本と思うが、本人の気持ちを大切にする、自己決定しやすい言葉掛けなど対応の在り方について職員間で話し合うことに期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が勝手に決めないで、その都度意向お聴きしてから行っています。自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まり、流れのようなものではなく、ペースに合わせてゆっくり生活していただいている。その日をどのように過ごすか希望は取っていませんが、何かゆっくりしたイベントとかも催しがあったら支援していきたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、寝る前、口腔、洗面の身だしなみ、朝は髪を整えてあげたり、洗髪後はおしゃれなスタイルにしたりします。洋服のコーディネートとも考えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担はありませんが、それぞれの方が責任を持って、お手伝いしてくれています。献立を決める時など、本と一緒に見たり、希望を取り入れて決めたりもします。	食物のこだわりとして、米は近くの農家から玄米で購入、近くの精米機で精米したものを食しているほか、野菜等植物繊維を多く摂るようにしている。食事は三食とも職員と一緒に会話に弾みながら楽しく食べている。今後は、畑づくりをしながら自分たちで作った野菜で料理したいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年は高温なため、水分1日1ℓ～1.5ℓを目安に補給して頂くよう頑張っています。入浴後、有熱者、発汗時にはより一層飲んでもらうようにしています。食事バランス良く摂れるように心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的にできない人は、誘導してその人に合った口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排せつ時間を把握しそれに対応してトイレ誘導を行っています。	日中は声がけしながらトイレ誘導に心掛け、できる限りおむつをしないよう支援している。なお、夜間も可能な利用者にはトイレ誘導し安心した夜を送れるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて個人の状態を見て便秘している方には処方通りの下剤服用、バランスのとれた食事、特に繊維を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴準備は毎日しており、本人に確認しながら、無理のないように支援をしています。入浴時は、着替えを準備し、清潔に勤めています。	入浴は午前、又は午後か本人の希望を聞きながら、入浴支援をしている。入浴時は会話を大切に心地良い入浴と利用者の希望等を聞く機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で、食後休眠を取る方、昼寝しない方など、その人に合った休息をとれるように見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の名前、用量、内容の紙を張って、職員がそれを見て服薬介助、体調の観察、排せつの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合った役割を見つけて日めくりカレンダーをめくる、おしぼりをたたむ、茶碗拭き、掃除などを行っています。飲み物やおやつ等意見を聞きながら可能な限り希望のものを提供しています。トランプやカラオケなど皆さんが楽しめる支援も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様をご家族様と出かけることもありまじ、職員が利用者様の希望や体調を考えてドライブなど行っています。今年の夏は猛暑日や真夏日が多く、利用者様の体調面を考慮し、外出する機会を控えました。	買物と一緒に出かけ利用者が不穏の状態になった経緯もあり、今は買い物に行く機会はないが、四季に応じ花見に出かけたり、広域公園に出かけたりして気分転換を図る機会を設けているほか、外食等の機会を増やしたいとしている。	ホーム側も予定とのことであるが、利用者の中に農業経験者もおおり、畑や花壇などをつくり土に触れることで精神的にも落ち着くのではないのかと期待する家族もいることから、日常的な外出機会の一助のためにも整備を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設側が管理し必要な時は職員と一緒に外出し対応している。ご自分の日用品の買物や、理髪店での支払い等行いました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1人の方については封筒と便箋を準備し投函等の支援をしました。ご家族様よりの電話の取り次ぎは行っています。ご本人からの連絡はご家族様の都合や本人の精神面など考慮し取り組んでいきたいと思ひます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感では七夕飾りを飾ったり季節の花を飾ったりしている。温度ではホールや居室に温度・湿度計を設置し、冬季間は加湿器を設置し、夏場はクーラーや扇風機で調節を行っている。	施設全体が清潔感があり、共有空間には、利用者が描いた絵などを飾られ、また季節を感じさせる飾り付けもしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、相性などの様子を見て席替えを行っています。ソファに移動して外を眺めたり、一人で過ごしている方や馴染みの人と一緒に座って交流している方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを活かしたいと思っているが、中にはすぐ家に帰るからいらぬと言う方もいるので、様子を見ている状態です。今後ご本人やご家族と相談しながら、心地よく過ごせるよう工夫して行きたいと思ひます。	居室には、家族写真を張ったり、生け花を飾ったり、それぞれ居心地よい雰囲気づくりに工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーのつくりとなっている。脱衣場～浴室の同線に手すりがあり、伝っていけるようになっている。		